市町村保健師と協働した保健所保健師の母子保健活動

～　市町村保健師の気になる現象から展開する保健活動　～

平成28年9月3日　全国保健師長会東海北陸ブロック研修会

岐阜県東濃保健所健康増進課　丹羽員代
（平成27年度まで岐阜保健所）

報告内容

1　地域母子保健活動の変遷
2　県保健所母子保健活動における問題意識
3　A市と保健所が協働した母子保健活動の実際
4　協働活動の振り返り
5　今後の県保健所保健師の母子保健活動について

★「県保健所保健師」とは岐阜保健所保健師を指します。

1　地域母子保健活動の変遷

S22 → S40 → H6 → H9 → H12 → H15 → H16 → H25

法令の変遷

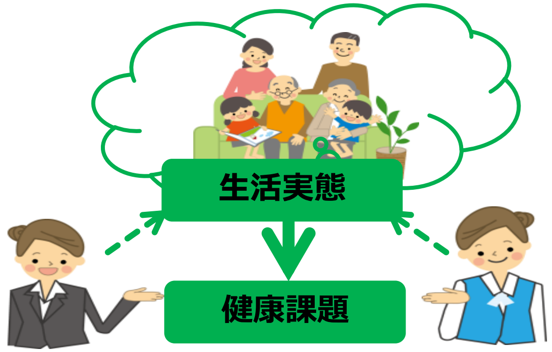
- 母子保健法 → 母子保健法改正（権限移譲①） → 母子保健法改正（権限移譲②）
- 健やか親子２１
- 次世代育成支援対策推進法
- 児童福祉法
- 児童虐待防止法
- 保健所法 → 地域保健法
- 保健師活動指針

保健所の役割

- 母子保健法：母子の生活実態で捉える健康課題 → 地域保健法：基幹統計資料等で捉える健康課題
- 母子保健活動の主体
- 広域的調整
  未熟児支援の主体
- 広域的調整
  専門的かつ技術的業務の推進
- 求めに応じた市町村支援 → 積極的な市町村支援

保健活動の傾向と課題

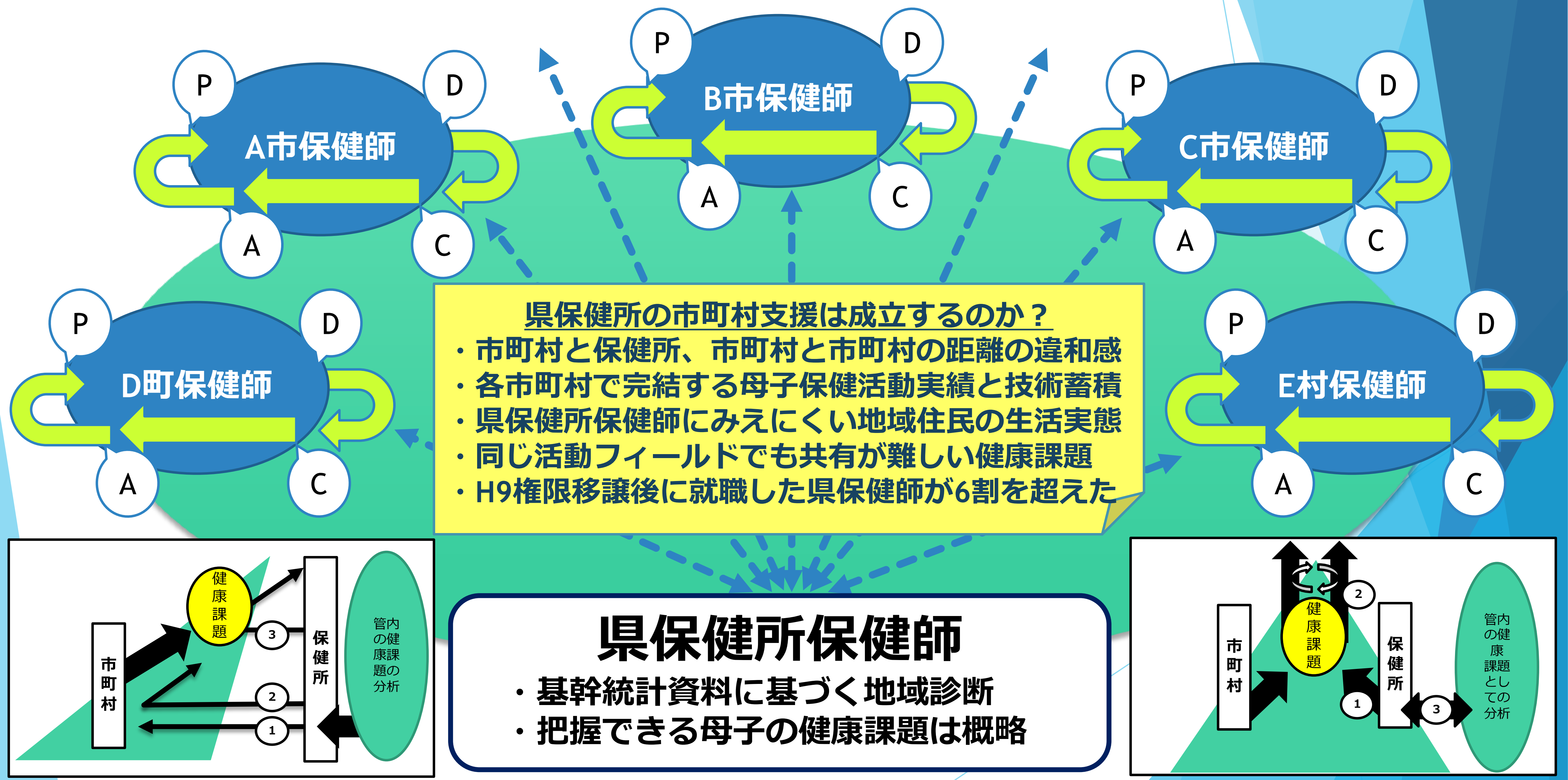
●市町村と保健所が活動フィールドを共有
●事業と時間を共有した活動



●保健所の機構改革の進展
●市町村と保健所の役割分担
●未熟児支援で協働
●不明瞭な市町村支援

●市町村ごとに活動が完結し、住民の生活実態、活動のノウハウも市町村に蓄積
●統計資料による概略的動向把握
●不明瞭な市町村と保健所の協働

2　県保健所母子保健活動における問題意識①



2　県保健所母子保健活動における問題意識②

担当1年目（H24年度）

管内共通の健康課題に対応した活動推進①

共通テーマ：周産期を中心とした妊産婦支援
方法：管内母子保健担当者連絡会議（２回）
対策：母子保健活動のヒアリング導入

●取組の温度差が激しい！
●管内共通健康課題への取り組みには限界がある？

２年目（H25年度）

管内共通の健康課題に対応した活動推進②

共通テーマ：周産期を中心とした妊産婦支援
：切れ目のない未熟児支援体制づくり
方法：担当者会議　母子保健活動ヒアリング
母子保健推進協議会

●新任期保健師の活動支援は現任教育で。
●保健所としての母子保健活動をどうするの？

３年目（H26年度）

４年目（H27年度）

各市町村の特性に沿った母子保健活動の推進①~②

テーマ：各市町村の重点母子保健活動の推進
方法：ＰＤＣＡサイクルの循環を意識した活動のゆるやかな交流の企画

●保健所も住民の生活実態をみる仕組みが必要では？

P → D → C → A → P ……

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
行動	担当者会議①　市町村個別ヒアリング（地域診断／活動計画立案の促進）						担当者会議②（中間評価）			母子保健協議会（主管課長説明）		担当者会議③（評価／次年度計画）

保健所課題：**中堅期以降保健師が活動する市町村と協働した母子保健活動**

３　A市と保健所が協働した母子保健活動の実際①

保健所の協働パートナーとなったＡ市の概要	
保健所の概要 （Ｈ２５データ） 	・県型保健所（５市３町管轄） ・管内人口約３９万人（県内人口の約19.2%） ・人口千対出生率8.9 ・保健師活動体制　１課４係　課長を含む１１名の保健師配置 ・母子保健担当は課長補佐級１名、担当１名
Ａ市の概要	・管内Ａ市（２町が合併して平成１４年に誕生した新市） ・人口　５３，１９７人 ・年間出生数約５６６件　人口千対出生率10.6 ・保健師活動体制　保健師数１２名 ・活動体制は地区担当、業務担当併用 ・母子保健担当保健師は６人（協働活動参加者７人）
活動期間	平成２６年６月から平成２７年８月

3　A市と保健所が協働した母子保健活動の実際②

P 地域診断			計画立案	D 実践	C 評価 A
母の育児力を事業結果で確認	精神発達要観察児の事例検討	母の育児の課題を抽出	母の育児力を豊かに育む活動計画の立案	母の育児力を豊かに育む活動の実践	実践結果評価と活動計画の修正

【事業名】育児のステップアップ作戦
【目　的】母が子どもにあったスモールステップを踏ませる方法を考えて関わることができ、育児に自信がもてる。
【目　標】１）母が基本的な子どもの発達を理解し、わが子の発達の変化と現在の姿を具体的に知ることができる。
２）わが子がひとつひとつできることを増やすための声かけや関わり方を考えて家庭で実践することができる。
【実　践】平成２６年６月から平成２８年３月

～　育児ステップアップ作戦１　～

【ポピュレーションアプローチ】
対象：1･6歳児健診対象児の母：５８３人
内容：
知識　⇒クイズで児の発達に関する母の理解度確認
現状　⇒個別保健相談によるわが子の発達段階の共有
相談　⇒育児のスモールステップ保健指導

【ハイリスクアプローチ】
対象：ポピュで把握した育児力に課題のある母
内容：母の行動変容を促す個別相談と行動目標の作成

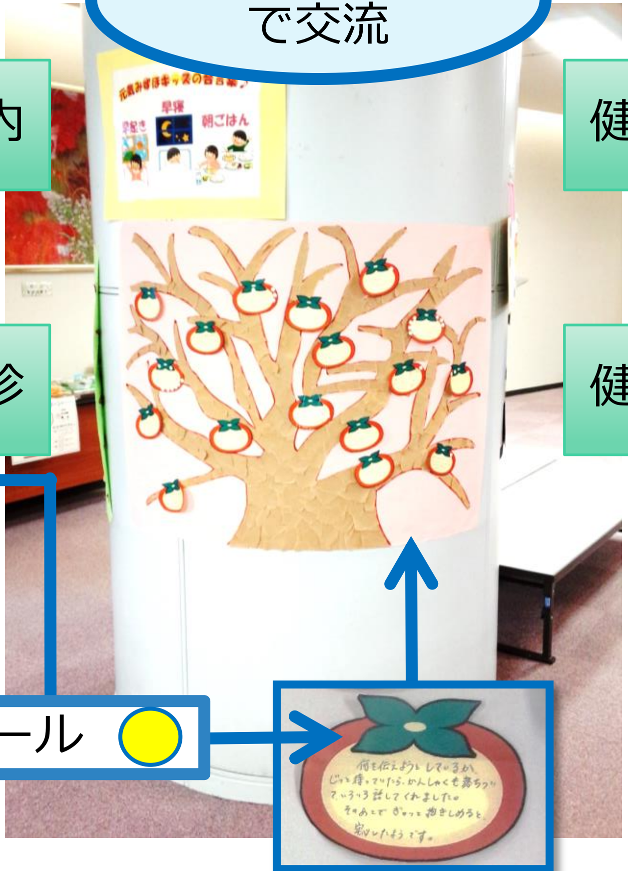
～　育児ステップアップ作戦２　～

【後輩ママへのメッセージ募集】
対象：２歳児相談、３歳児健診受診児の母：１，１８８人
内容：先輩ママの育児成功例を後輩ママへのメッセージとして健診時に募集し保健センター内に掲示

【メッセージを用いたピアサポート】
対象：1.6児健診対象児の母：５８３人
内容：健診時後輩ママへのメッセージを閲覧し、共感できるメッセージに「いいねシール」を貼付

3　A市と保健所が協働した母子保健活動の実際③

メッセージ
で交流



作戦１

1.6歳児健診

- 健診案内 → 子どもの発達クイズ送付
- 健診

受付
↓
問診
↓
身体計測
↓
内科健診
↓
歯科検診
↓
個別保健指導
（歯科、栄養、**保健指導**）

①クイズ回収
②メッセージ閲覧

③クイズ答え
④わが子の発達共有
⑤保健指導
❻お家でできること

- 健診後 → 家庭訪問による
健診後の育児サポート

いいねシール

作戦２

２歳児相談　３歳児健診

- 健診案内 → メッセージ募集案内とツール送付
- 健診

受付
↓
問診
↓
身体計測
↓
内科健診※
↓
歯科検診
↓
個別保健指導
（歯科、栄養、**保健指導**）

保健指導しながら
メッセージ回収

【ポイント】
母の育児を労い、
肯定感を育む保健
指導

- 健診後 → 保健センターロビーに掲示
（２歳児、３歳児の母も閲覧）

３　A市と保健所が協働した母子保健活動の実際④

２か月後

かきりんの木
（２歳ママの木）

A市マスコットキャラクター
かきりん

4　協働活動の振り返り（概略）

1　Ａ市母子保健活動の現状と課題確認

既存資料調査
聞き取り調査

2　気になる現象と健康課題のみたて

日頃の母子保健活動の振り返りと地域診断

3　健康課題の根拠確認

乳幼児健診等事業の結果の検証

4　健康課題を持つ対象の明確化

健診・相談事業「要観察」事例の判定理由の検証

5　健康課題を持つ対象集団の実態把握

健康課題を持つ個別事例ごとに育児経過を検証

P →

6　健康課題をもつ個別事例の実態把握

顕著な健康課題を持つ個別事例の育児実態を事例検討

7　健康課題の具体化

顕著な健康課題を持つ個別事例から「母の育児力」を抽出し、共通理解

8　母子保健活動計画の立案

・母子保健活動の方向性の検討
・母子保健活動の活動計画、評価計画の立案

9　母子保健活動の実践

母の育児力を豊かに育む母子保健活動の実践

D →

10　母子保健活動の評価

母の育児力を豊かに育む母子保健活動の評価

C　A →

4　協働活動の振り返り　①

Ａ市母子保健活動の現状と課題確認	展開方向	A市母子保健活動方法の現状と課題確認
	結果概要	保健活動上の悩みの共有

実　　践

■保健所保健師の目的■

　組織体制、政策、活動体制の現状と課題から協働パートナーを理解する。

■実践内容■

1　組織等体制の確認
2　政策方針確認
3　母子保健活動の現状と課題共有

県保健所保健師
・公開資料、総合計画等から活動体制確認
・ヒアリング

A市
・日常的な保健活動の振り返り

ＰＤＣＡサイクル循環の詳細と活動展開の課題

1 組織としての協働関係づくり
　統括者の理解を求め、母子保健担当者全員が参加

2 保健活動の悩みの共有
　1）　保健活動の展開過程に関する悩み
　　（１）健康課題の見立てに自信がもてない。
　　（２）個別事例の健康問題を地域全体の健康課題として財政関連課に説明することに苦慮する。
　2）　地域診断の基礎資料の管理
　　合併時に保健統計資料をデータベース化したことが、事業の活動評価に役立っているが、毎年更新することが容易でない。

【課　題】根拠が明確な健康課題のみたて

4　協働活動の振り返り　②

気になる現象と健康課題のみたて	展開方向	日頃の母子保健活動の振り返りと地域診断
	結果概要	日頃の母子保健活動における気になる現象の中から母の育児を困難にしている育児力の低下に注目

実　　践

■県保健所保健師の目的■

　A市保健師が日頃気になる現象を共有し、お互いの強みを活かした地域診断の結果を健康課題の検討へつなぐ。

■実践内容■

ディスカッションで明確化

1　A市母子保健活動の振り返りと
　気になる現象の語りを聞き取り
2　今後の地域診断の役割決定
3　地域診断結果の共有
4　健康課題の共有

ＰＤＣＡサイクル循環の詳細と活動展開の課題

母の育児力の低下に注目	健診事業で要観察と判断される児の数は２歳相談にピークがあり、３歳児健診で減少する。 　母の育児力（「みる力」「向き合う力」）が低下しているではないか。

≪「母の育児力」地域診断の役割分担≫

1　保健所保健師　➔　保健所に集まる人口動態等基幹統計中心
　母の育児力がみえるデータが乏しい（限界）

2　A市保健師　➔　保健事業実績中心の地域診断
　膨大なデータに埋もれる（行き詰まり）

【課　題】「母の育児力」が指す育児の実態が共有できていない

4　協働活動の振り返り　③

健康課題の根拠確認	展開方向	乳幼児健診等事業の結果の検証
	結果概要	２歳児相談で精神発達領域要観察児件数がピークとなることを確認

実　　践

■保健所保健師の目的■
　A市保健師の保健活動体験から、気になる「母の育児力」の実態を共有し、根拠となるデータを特定する。

■実践内容■
1　気になる現状の再共有
2　A市地域診断計画を検証
　（保健活動記録情報量・質確認）
3　保健所管内の健康課題としての検証

県保健所保健師
・地域診断方法提案
・データ加工
・検討資料作成

A市
・データ集計
（eシステム）

ＰＤＣＡサイクル循環の詳細と活動展開の課題

1･6歳、２歳で多かった要観察児が３歳で減少を確認

管内他市町村でも同じ現象が起きている・・・

担当者会議で共有

健診種別で観察判定児の動向をみる
　２歳児相談　H21年度：49%　➜　H25年度：29%
　要観察児は減少してる。

A市保健師の気になる現象は別のところにある

出生母集団（H22度生）で動向をみる
　２歳児相談要観察34%　➜３歳児健診要観察11%
　子どもの育ちで検証すると２歳児相談にかけて要観察児が増加し、３歳児健診で減少するデータを可視化。

【課　題】データは豊富にある
　「母の育児力」が指す育児の実態が共有できていない

４　協働活動の振り返り　④

健康課題を持つ対象の明確化		
	展開方向	健診・相談事業「要観察」事例の判定理由の検証
	結果概要	個別事例から「母の育児力」を健康課題の本質とする対象を特定

実　践

■保健所保健師の目的■

　A市保健師がみたてた健康課題を持ち、支援策が必要な対象の属性をA市の母子保健活動の実績に基づいて検討する。

■実践内容■

1　気になる現状の再共有
2　A市地域診断計画を検証
3　地域診断の再役割分担と実践
保健所保健師→量的地域診断
A市保健師→質的地域診断

県保健所保健師
・地域診断方法の提案とアセスメントのフォロー
・検討資料作成

A市
・データ集計
（ｅシステム）
・健診結果のアセスメント

ＰＤＣＡサイクル循環の詳細と活動展開の課題

２歳の課題が３歳でも解決しない事例に注目

３歳児健診で要観察児が減少する背景には、２歳児相談後の母の育児体験の積み重ねで問題解決する事例が多い。一方、**３歳児健診まで２歳児相談の課題が持続する事例**がある。（H22年度生まれ）

２歳、３歳とも要観察児	４６件
２歳、３歳とも同じ課題要観察児	２７件
母のメンタル、経済的問題、発達障害除外	１６件
母の育児が気になる事例	１１件

【課　題】２歳児相談要観察児のデータベースを作成したが、育児力の実態が共有できない。

4　協働活動の振り返り　⑤

健康課題を持つ対象集団の実態把握		
	展開方向	健康課題を持つ個別事例ごとに育児経過を検証
	結果概要	「母の育児力」を健康課題の本質とする個別事例の育児経過を検証し、顕著な健康課題を持つものを特定

実　　践

■保健所保健師の目的■

　個別事例の育児経過から健康課題の実態を読み取り、顕著な健康課題を持つ個別事例を特定する。

■実践内容■

1　母子カードの記録状況を共有
2　地区担当保健師ごとに顕著な健康課題を持つ個別事例を選定

県保健所保健師
・事例振り返り方法提案
・プレゼン様式の提案

A市
・事例プレゼン資料作成
・事例の育児の読み込み

ＰＤＣＡサイクル循環の詳細と活動展開の課題

同じ課題で要観察が続く事例を抽出

同じ健康問題で２歳児相談、３歳児健診要観察の判定が続いた母子の１１事例を地区担当保健師に振り分け

↓

事例の振り返り健康問題が完成する過程を振り返る
　範囲：妊娠届出から３歳児健診事後フォロー
　媒体：支援記録（母子カード）
　内容：子どもの育ちと母の育児経過
　事後：統一様式に経過入力

↓

最も育児が気になる６事例を選定

【課題】母の育児力に課題がある事例は選定できたが、育児経過の情報が不足

４　協働活動の振り返り　⑥

健康課題をもつ個別事例の実態把握		
	展開方向	顕著な健康課題を持つ個別事例の育児実態を事例検討
	結果概要	顕著な健康課題を持つ個別事例の育児経過を共有し、「母の育児力」の実態を共有

実　　践

■保健所保健師の目的■
　顕著な健康課題を持つ個別事例の健康課題の成り立ちを保健師間で共有し、「育児力」の定義づくりへつなぐ。

■実践内容■
1　事例検討（育児経過と支援）
2　「母の育児力」学習会
3　個別事例から母の育児力の抽出

県保健所保健師
・学習会方法提案
・事例検討方法提案
・育児力抽出方法の提案
・**活動展開図の導入**

A市
・事例のプレゼン準備
・事例検討と育児力の分析
・文献検索と学習会準備

合同事例検討

ＰＤＣＡサイクル循環の詳細と活動展開の課題

母の育児力を個別事例から抽出

事例検討（６例）
・全保健師の記憶を統合して事例像共有
・母の育児の課題をアセスメント

↓

事例検討副作用　→　母の育児動向学習会
★母の育児は「低下」ではなく「変化」した！

↓

事例から母の育児力抽出
　事例の母にみて欲しかったこと（みる力）
　向き合って欲しかったこと（向き合う力）

【課　題】気になる育児行動は分かったが、共通言語にならない

4　協働活動の振り返り　⑦

健康課題の具体化	展開方向	顕著な健康課題を持つ個別事例から「母の育児力」を抽出し共通理解へ
	結果概要	個別事例から母の「児をみる力」10項目、「児と向き合う力」11項目を抽出し、健康課題を具体に言語化

実　　践 → **ＰＤＣＡサイクル循環の詳細と活動展開の課題**

■保健所保健師の目的■
　検討した個別事例の育児経過を基に、気になる現象から仮定した健康課題の共通定義をつくる。

■実践内容■
1　母の育児力の分析
　（母の育児力の定義づくり）
2　母の育児力の構造確認

県保健所保健師
・育児力定義作成方法提案
・保健活動が必要な育児力の焦点化を提案

A市
・事例の母の育児力を分類
・育児力の性質と構造検討

母の育児力を「みる力」・「向き合う力」に分類し共有

母の「向き合う力」が保健師が観察できる力と合意

母が子どもを「みる力」・・・１０項目に分類
①子どもの育ちを判断する力
②子どもの行動を知る力
③子どもの個性を理解する力　他

母が子どもと「向き合う力」・・・１１項目に分類
①子どもの個性を尊重して育ちを支える力
②子どもの心が安定する環境を整える力
③子どもにスモールステップを踏ませる力　他

母の育児力の構造確認
・個々の「向き合う力」に複数の「みる力」が必要
・現場で保健師に確認できることは「向き合う力」

【課　題】母の育児力に対応した母子保健サービスの評価

4　協働活動の振り返り　⑧－１

母子保健活動 計画の立案１ （従来の活動評価）	展開方向	健康課題に対応した母子保健活動の方向性の検討
	結果概要	母子保健活動体制の課題と、現行体制が支援していない「母の育児力」を確認

実　　践　→　ＰＤＣＡサイクル循環の詳細と活動展開の課題

■保健所保健師の目的■
　現行の母子保健活動の課題を検討し、新たな健康課題に対応する保健活動の計画立案方針を決める。

■実践内容■
１．現行活動の課題検討
２．対策が必要な母の育児力の検討
　（優先順位検討）

県保健所保健師
・活動評価、先駆的事例の文献紹介
・現行施策のまとめ提供
・現行施策の評価方法提案
・管内保健師交流機会の設定

A市
・保健事業体系図作成
・現行活動評価
・支援が必要な育児力の焦点化
・管内保健師、他職種との意見交換

「向きあう力）に対応する保健活動の方向性の検討

管内他市町村は母親支援どうしてる？

担当者会議で意見交換

公衆衛生看護活動の評価及び先駆的事例の学習

母子保健関連既存４計画の評価
　→　既存計画は児童福祉施策に傾倒。母の育児力を育む母子保健活動の明確な方針を打ち出す必要性を確認

現行母子保健活動体系・体制を活動評価し可視化
　→　暗黙の了解となっていた事業目的再確認

【課題（活動計画策定の方針）】
①1･6歳児健診から２歳児相談まで母親支援の充実
②３つの母の育児力に対応する支援の充実
③２歳児の育児に突入する母を支援する予防的保健活動の実践

計画策定へ
GO！

4　協働活動の振り返り　⑧－２

母子保健活動計画の立案２（活動計画）	展開方向	母の育児力を豊かに育む母子保健活動の計画立案（活動計画）
	結果概要	作戦１：1･6歳児健診でのポピュレーション、ハイリスクアプローチ企画 作戦２：1･6歳児、２歳児相談、３歳児健診の母同士のピアサポート事業企画

実　　践

■保健所保健師の目的■

住民等に説明できる健康課題に対応した保健活動計画を策定する。

■実践内容■

1．企画の書面化
2．活動ツールの検討と作成

県保健所保健師
・計画に取り込む要素の提案
・計画策定媒体提供
・要綱作成の助言
・新規事業の位置づけ再確認の提案

A市
・事業計画づくり
・活動ツールの作成
・新規事業と既存事業の相互作用検討

ＰＤＣＡサイクル循環の詳細と活動展開の課題

２歳児の育児に突入する母が、育児に自信がもてる保健活動

母の児に「向き合う力」を育む保健活動の企画

作成１
対象：1･6歳児の母（２歳児ママ予備軍）
内容：健診個別保健相談のリニューアル
★知識と向き合う力で子どもの成長段階を知り、児の成長に必要な母の行動変容をサポート

作成２
対象：1.6歳児健診、２歳児相談、３歳児健診の母
内容：後輩ママへの育児アドバイスメッセージを介したピアサポート
★先輩ママ：育児成功体験のすりこみと自己効力感
★後輩ママ：育児に悩む母としての共感

【課　題】計画に忠実な実践　計画の有効性に疑問

4　県保健所保健所としての協働活動の振り返り　⑧－３

母子保健活動計画の立案３（評価計画）	展開方向	母の育児力を豊かに育む母子保健活動の評価計画立案（評価計画）
	結果概要	保健活動の実践結果及び支援対象者の家庭訪問結果から企画評価、実施評価、結果評価を計画立案

実　　践

■保健所保健師の目的■

　保健師間で目的、目標と導かれる成果を共通認識し、評価方法を計画する。

■実践内容■

1．目指す住民の姿の確認
2．量的、質的評価方法の検討
3．評価の精度対策の検討

県保健所保健師
・文献学習を踏まえた量的、質的評価方法の提案
・評価指標のデータ整理方法の提案
・既存資料を用いた地域診断の継続を提案

A市
・量的、質的評価の方法の検討
・評価方法の修正
・既存資料を用いた地域診断の実践

ＰＤＣＡサイクル循環の詳細と活動展開の課題

量的/質的視点から評価指標、方法を決定

1.活動が目指す姿から考えた評価指標
1)母の育児力の変化
　→　健診等要観察児の割合の減少

2.母の生活実態から捉える評価指標
1)基本的な児の発達とわが子の発達の変化の理解度
　→　指さしの発達過程確認クイズの正答率
2)母がわが子の育児方法を考え実践した状況
　→　訪問等時の児への声かけや関わり状況を評価
3)母の育児に対する肯定感
　→　後輩ママへのメッセージ記入数を評価
4)子育てを通した住民同士の交流
　→　後輩ママへのメッセージ記入数と共感シールの貼付数を評価

【課　題】評価の精度

4　協働活動の振り返り　⑨

母子保健活動の実践	展開方向	母の育児力を豊かに育む母子保健活動の実践
	結果概要	作戦１，２の実践と振り返り

実　　践

■保健所保健師の目的■
　母子保健活動を実践し、住民や従事者の反応から把握される計画の課題や改善点を明確にして活動評価に繋ぐ。

■実践内容■
・計画の実践
・実践の振り返りと計画の微修正
・有識者スーパーヴァイズ

県保健所保健師
・実践のモニター
・スーパーヴァイズ機会の設定、受け方の提案

A市
・他職種計画共有
・計画実践
・実践結果の随時振り返り

ＰＤＣＡサイクル循環の詳細と活動展開の課題

育児ステップアップ作戦の実践

★３か月間の結果

作戦1　1・6児の母への個別保健指導
　健診開催回数：6回（受診率101.4%）
　実施率100%（ハイリスク6人）

作戦２　後輩ママへのメッセージを用いたピアサポ
　健診開催回数：21回
　メッセージ回収数：103件
　共感シール：100枚

協働活動を発端とした広域的健康課題への対応策として管内研修会を開催

母子保健活動専門家によるスーパーヴァイズ
　母子保健活動体制へのアドバイスと実践
　作戦2の実践方法に関するアドバイスと実践

【課　題】実践過程で発見される課題への確実な対応

4　協働活動の振り返り　⑩

母子保健活動の評価	展開方向	母の育児力を豊かに育む母子保健活動の評価
	結果概要	保健活動実績から量的評価、個別事例家庭訪問結果から質的評価を実施し、以後の保健活動の方向性と改善策を検討

実　　践

■保健所保健師の目的■

　対象の行動変容に着目して母子保健活動を評価し、健康課題の妥当性、対象のニーズに適した活動計画の改善、今後の活動方針を考える。

■実践内容■

・ハイリスク事例の育児実態確認
・活動評価検討会

県保健所保健師
・ハイリスク事例家庭訪問後の事例検討方法提案
・実践結果の回顧方法の提案
・再地域診断、活動のまとめ資料作成し提供

A市
・ハイリスク事例家庭訪問と評価
・実践結果の回顧
・今後の活動計画、活動方針の検討
・協働活動の回顧

ＰＤＣＡサイクル循環の詳細と活動展開の課題

母の育児力を豊かに育む母子保健活動計画の中間評価

1．事業実績データの収集
　事業実績の集計と問診の集計
2．毎月の活動評価
　「うまくいっていること」「改善が必要なこと」意見交換
3．ハイリスク事例家庭訪問（前後の事例検討）
4．評価
　企画評価、実施評価、結果評価

【課　題】実践過程で発見される課題への確実な対応
・母の育児力の行動変容を得るには活動方法の再考が必要
・後輩ママへのメッセージを用いて母のニーズ分析へ

5　今後の県保健所保健師としての母子保健活動について

協働してくださったA市保健師さんの声

良かったこと

●市保健師が問題提起し、保健所保健師が分析する。お互いの得意な技術を出し合い活動成果が出せた。

●市や保健所という立場を越えて話し合う事で健康課題の実態がみえた。

困難だったこと

●データから健康課題を言語化すること。

●数値にならない保健活動の成果を評価すること。

自分自身の活動の変化

●経験や考え方の違う保健師同士意見を聞く関係を持ち続ける活動が大切だと思った。

●住民の生活実態を経過でみるようになった。

●漠然と考える健康課題を深く考えることが保健活動の充実につながると思った。

●PDCAサイクルを意識するようになった。

5　今後の県保健所保健師としての母子保健活動について

1）県保健所保健師の活動の課題

県保健所保健師のディスカッションの結果抜粋

・活動の主体になれないジレンマ
・協働活動のスキルの習得
・異動による保健活動継続困難感
・市町村保健師とともに保健活動を考える関係性

2）管内市町村保健師の活動の課題

管内市町村保健師のディスカッションの結果抜粋

多忙な業務に追われることで・・・
・日常業務に地域診断が定着しづらい
・健康課題を曖昧にしておく
・系統的な保健活動の実践
・保健活動の評価

3）協働活動のメリット・・・・・PDCAサイクルが循環する

・日常業務における地域診断の定着
・潜在する健康課題に対応した保健活動の起動
・健康課題の共有による役割の明確化
・保健活動技術の相互学習

5　今後の県保健所保健師としての母子保健活動について

2）県保健所保健師に期待されていた協働活動

～Ａ市保健師とのディスカッションの結果～

・健康課題の分析
・保健活動の評価
・他市町村の保健活動状況に関する情報提供
・外部機関の立場での市町村保健活動への介入
・保健活動を展開させる機会づくり

★成人保健領域の健診結果のように一般化された指標がない
　母子保健領域だからこそ大切にしたい協働活動

5　今後の県保健所保健師としての母子保健活動について

３）今後、続けていきたい県保健所保健師の母子保健活動

・活動スタンス　　➔　市町村「支援」から「協働」へ
・地域診断の精度　➔　市町村保健師の保健活動とのリンク
・健康課題の発掘　➔　活動に埋もれる健康課題の顕在化
・情報提供や意見交流の機会づくり
・市町村の健康課題を管内、県の課題に転換し、県の政策展開へつなぐPDCAサイクルの循環
・保健所保健師の業務の確実な引き継ぎ（責任ある協働）

ご清聴ありがとうございました

　保健所母子保健活動の在り方をみつけようとする保健所保健師に、寄り添い、一緒に考えてくださったＡ市保健師の皆様に深く感謝します。

　取組を見守りサポートしてくださった保健所スタッフの皆様、岐阜県立看護大学の先生方に深く感謝します。